

事項	リンゴ黒点病被害葉の特徴		
ねらい	黒点病の越冬源の主体とされている被害葉は、これまで現地において確認されなかった。被害葉をふじで確認したので、参考に供する。		
指導参考文献内容	<p>1 被害葉の特徴 ふじにおける症状は以下のとおりである。</p> <p>(1) 9月下旬ころから葉身上に、3mm以下の紫褐色不整形病斑として現れ、ときには褐色～白褐色のえそ部分をともなうこともある。病斑はわずかに進展する程度であり、病斑部分から縮葉することはない。</p> <p>(2) 被害葉は、10月下旬ころから黄変して落葉しだし、11月中旬までにはほとんどが落葉する。</p> <p>落葉上では病斑は葉脈に囲まれた大きさ1～3mmの黒褐色角形となり、病斑上には多数の小黒点粒が形成される。これら小黒粒の大きさは、肉眼でかろうじて観察が可能な程度である。</p>		
期待される効果	被害葉処理による耕種的防除法が可能となったので、黒点病の防除がさらに徹底される。		
利用上の注意事項	褐斑病の小斑点病斑と類似するが、褐斑病では葉脈に囲まれたことはない。		
担当	青森県畑作園芸試験場 病虫肥料部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成9年度 青森県畑作園芸試験場成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 病斑の大きさ

(平成9年 青森畑園試)

採集月日	採集部位	病斑の形、色	調査病斑数	大きさ別の病斑数 (率)				
				1mm未満	1-2mm	2-3mm	3-4mm	4-5mm
10. 9	樹上	不整形 紫褐色	604	145 (24.0%)	416 (68.9%)	42 (7.0%)	1 (0.2%)	0 (0%)
10.27	樹上 (黄変葉)	不整形~角形 紫褐色	394	27 (6.9)	279 (70.8)	72 (18.3)	14 (3.6)	2 (0.5)
11.14	落葉	角形 黒褐色	248	12 (4.8)	170 (68.5)	57 (23.0)	9 (3.6)	0 (0)

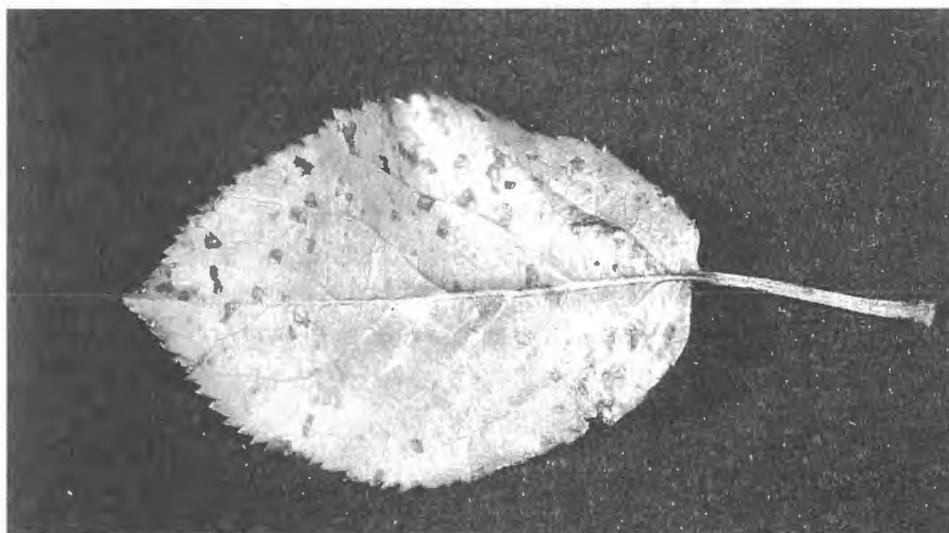
注 供試品種：ふじ

表2 黒点病菌の分離結果

(平成9年 青森畑園試)

採取月日	採取部位	供試病斑数	黒点病菌の分離数(率)
10. 9	樹上	52	31 (59.6%)
10.27	樹上 (黄変葉)	60	37 (61.7)
10.29	落葉	54	18 (33.3)

注 供試品種：ふじ



リンゴ黒点病の被害落葉 (品種：ふじ)